

看護師行動パスを作成して

○野中 望

岩井整形外科内科病院

【はじめに】当院は内視鏡下で頸・腰ヘルニア除去、除圧などを主に行なう。在院日数が4～14日と短いため、術前の説明内容が重要となっている。しかし、院内患者アンケートより入院時の説明やケアについて「術前の説明、看護師のケア内容、対応方法にバラツキがある」と指摘があった。また、スタッフより「術前説明、入院中の流れがわかりにくい」とあったため、看護師の統一したマニュアルが必要と考え、看護師行動パスを作成したので報告する。

【方法】局所麻酔・腰椎、頸椎内視鏡下手術・大腿骨頸部骨折、人工関節置換術の8種の術式をピックアップ。作成にあたり対象術式を執刀する医師から意見をもらいクリティカルパスをもとに「看護師行動パス」を作成、平成24年7月完成、同年8月病棟スタッフへ配布し、使用を開始した。

【結果】今までとの違いもあったため、慣れるまで確認作業が多かった。また、使用中に変化があり、追加・修正を行なった。使用開始から2ヶ月目で感想を聞いたところ、「行動パスを導入して統一感がでた」と評価を得た。しかし、業務内で変更・曖昧な点・疑問点など適時修正してほしいとの意見があった。また、当院で実施している患者アンケートからは、説明内容について「個人差がある」という意見がまだ見受けられた。

【考察】看護師行動パスを導入してから、説明内容での統一はできているが、追加・修正が必要と感じた。今回作成したパスは完成品でなく適宜修正していくことでさらに使用しやすい行動パスへ変化させていく必要があると考える。また、今後はリハビリ・薬剤部など他部門との医療連携パスへ発展させていきたい。